

令和6年度第1回 大阪府障がい者施策推進協議会文化芸術部会 議事概要

- 日時：令和7年2月28日（金）午前10時～
- 方法：オンライン部会
- 出席委員(五十音順・敬称略・◎部会長、○副部会長)

○今中 博之 社会福祉法人 素王会 理事長
◎小田 多佳子 社会福祉法人 大阪手をつなぐ育成会 理事長
鈴木 京子 ビッグ・アイ共働機構 アーツエグゼクティブプロデューサー
服部 正 甲南大学 文学部 人間科学科 教授
宮本 典子 オフィス・エヌ 代表、アートマネージャー、アートコンサルタント
森田 かずよ NPO 法人ピーススポットワンフォー 理事長、女優、ダンサー

■概要：

- ・議事1「文化芸術にかかる取組み実績等について」について、意見交換等がなされた。
- ・議事2「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」に基づく「大阪計画」を踏まえた今後の府事業の方向」について、意見交換等がなされた。

■主な意見：

議事1について

- 事務局より、今年度の大阪府の事業実績について説明。

（委員意見）

- ・2点補足したい。

まず1点目、ビッグ・アイが拠点となって実施していたアート工房は、障がいのある方のサードプレイスという役割がある。土曜日曜でも外出が限られ人と交流する場所が少なく、移動も困難という課題を抱えていることも多くあることから、昨年に引き続き吹田市と2年ぶりに大阪市でも実施した。大阪市は前回と場所を変えて北区で開催した。

今回のような単発的なワークショップも重要であるが、本来は定期的に行なえる場所が非常に必要ではないかと、実際現場で事業を進めるで、改めて感じた。

もう1点目は、市町村連携について。先述のアート工房も市町村との連携だが、それとは別に、今年度は鑑賞型の舞台芸術の事業を実施した。

例えばダンスや、演劇、音楽も過去に実施したことがあるが、大阪府の事業の中で、「芸術文化コンテスト」のような発表の場があり、それは鑑賞の場にもなるが、実際にプロの演劇を観るとか、音楽を聴くという観賞型の事業はこれまでなかった。障がいのある方が公立の文化施設の様々な公演にアプローチできれば良いが、なかなか大阪府下では、障がいのある方が鑑賞しやすい公演を実施している文化施設が少ないということで、高槻市と連携し実施した。演目は、A

委員が主演を務める、ノンバーバル（言葉をつかわない）演劇だったが、あっという間に座席が埋まり、鑑賞型プログラムの必要性を実感した。鑑賞型事業においては、情報保障も重要。ノンバーバル作品とはいえ、いろんな効果音を使用するので、例えば聞こえない方に対しては、字幕を提供をするほか、自閉症の方、発達障がいのある方たちに向けては、その特性に合わせて、照明の明度や音の大きさを調整し、工夫して、鑑賞の場である劇場内の環境を整えて実施した。その結果、アンケートも回収率が非常に高く、好意的な意見が多かった。このことから、鑑賞へのニーズは高く、大阪府内で今後展開を検討する必要があると大変感じた。

万博の舞台芸術分野のダンス発表について、令和5年度から徐々に準備を進めてきている中で、いよいよ、今年が本番になる。ダンスの中でもクオリティが高い、技術力の高いトップクラスの方たちから、ダンス歴のない初心者の方たちまで出演できるようなダンスを、万博会場内で大阪府が実施する事業のオープニングとして披露するべく、創作を進めている

- ・カペイシャス事業は、例年通り、展覧会を開催するとともに、アートフェアに出展した。それに加えて、今年度の事業で補足したいのは二次利用について。

二次利用が実現しお披露目に至ったのは今年度に入ってからだが、ほぼ一年をかけて企業とやり取りをしてきた。カペイシャスとしては、これまでも、今も、作品の原画販売を主軸に実施しており、二次利用は積極的に行ってこなかった。年に1、2件、カレンダーの表紙にしたいとか、ポスターに使いたいとか、小規模な案件というのはあったが、撮影している写真を提供するという簡単なもののみだった。

大阪にも魅力的な作家たちがいるのに、カペイシャス事業を行っている私たちには二次利用に対するノウハウが乏しく、希望があっても、結局別の中間支援の方、例えば奈良県で活動されている「たんぽぽの家」を紹介せざるを得ないなど、せっかくお声が上がるのに、取り組まないのはもったいないとの思いで、不慣れな中でやってきた。

しかし、二次利用に慣れてない者がやるからか、すごくいいものを作ろうと思って手間ひまがかかってしまうなど、大変さも含めて勉強になる一つのケーススタディだった。

今「ヘラルボニー」などお聞きになると思うが、二次利用を生かした取り組みが、全国的に大変盛り上がっているところかと思う。

今後、大阪府の行政としての特徴として、どこを打ち出していくかということに関わるかもしれな

いが、今後の方向性を考える上で、どういう可能性があるのか、考えるポイントの一つにはなるのではないかと感じている。

もう一つは、万博の機運醸成のための事業として新たな取り組みをしているところ。府外3か所で機運醸成を兼ねたイベントを実施するという取り組みだが、受託者として決定してから事業まで期間が短いなど、難しい条件の中ではあったが、進めてきた。

1回目は6月に、ローンチとして広く広報するということで、動員数が大きなイベントでPRイベントをし、2回目は11月下旬に、アメリカのカリフォルニアにある「クリエイティブグロウス」という50年ほど歴史のある世界でも有数な、この分野で牽引してきた施設のディレクターを招いて、国際シンポジウムを実施することができた。

私自身、クリエイティブグロウスに行ったこともなく、調べる中で知り得たことだが、実態を持ってプレゼンテーションしていただくことができた。登壇者には、このアウトサイダーアートの日本での第一人者的な現代美術の小出由紀子さんにもアドバイザーとして参画いただき、現代美術の分野でハードコアというか、中心にいる方と、その周りを広げていくことにも関心を持たれている方をバランスよく折り混ぜて実施することができたかと思う。ユーチューブにも映像をアップしているので、今後も活用していけるものができたのではないかと考えている。

私自身、日本の現状と、海外のコンテンポラリーアートの本当に範疇の広さというか、懐の深さ、厚みのようなものを痛感したシンポジウムとなった。

3回目は、今年1月下旬に、5日間だけだが、東京青山で14名の作家によるグループ展を実施した。最終来場者人数は約4,700人で、アート、デザイン、福祉分野など、様々なバックグラウンドを持つ方、専門性を持つ方を含め、非常に多くの方にご覧いただいた。出展していただいた障がいのある方や、支援者にも会場に可能な限りお招きし、ご観覧いただけたこともよかった。

この展覧会を通してまだまだ課題等も見えた一方、普段経常的な事業費の規模ではできない、色々な方を巻き込み、お知恵を借りながら、私たち自身も学びを得て、好評をいただきながら実施できた。

・enoco 芸術文化創造センターで、障がいのある方の作品と、現代アート、近現代美術を同時に展示する展覧会を企画したことは大変大きなことだと思う。

実際に大阪府のコレクションに入っているアーティストの方が何人かと、障がいのあるアーティストの方たちの作品が同時に展示されていて、府全体として考えれば大変大きなことだったと思うが、先ほどの事務局の説明には全く出てこなかった。予算がついていないから説明がないということだと思うが、一方で特に文化事業を実施する以上は、やはり全府庁で、文化セクションがそこに今関心を持っているという状況に対して、福祉の側からアプローチしていくべき。せっかく今関心を持って展覧会が開催されているのだからもっと入って行って、一緒にできるようになっていけば、もっと良いと思う。

もう一つは、その展覧会にも出展されていた大阪府の黒田勝利さんは、今年大ブレイクした作家さんだと思う、オランダの展覧会に出品されたり、パリのポンピドゥーセンターでも展示されたり、フランスの定評あるアート系の雑誌に掲載されたりいろいろあったが、これらの他の部門で起こっている大阪府内の障がいのあるアーティストの方のことについて、府の福祉の側からはどう考えておられるのか、お聞きしたい。

- ・毎回この部会に出席する時に、いつも、当事者の立場で、障がい福祉という狭いところで考えがちだが、「文化芸術」は他分野の相互の関係性のためにももっと広く捉えていかないといけない。本日も文化セクションの方も、教育セクションの方もオブザーバとして出席していただいている。広く捉えることの情報の共有が必要。

- ・今回、**enoco** で勤務する学芸員の方のご尽力で文化庁の臨時予算が付き、**enoco** の所蔵作品と障がいのある方の作品を含めたグループ展が実現した。現代美術として発信しようという姿勢があつた形となって現れた。

大変貴重な機会で、私自身もあのように、作品を同等に並べて見せることで新たな気付きもあったし、東京の展覧会でできたことも含めて、日常的にというか、定期的に大阪で実施されていく仕組みができれば、また東京でもまた違った形で見せていける可能性も広がるし、やはりそういう鑑賞する機会を増やしていくことは、認知も広がるし、作家として活躍する機会も増える。大小いろいろなタイプの展覧会が、美術界と福祉界がごちゃ混ぜで、もしかしたら教育関係や、場合によっては社会学のような分野ともつながるかもしれないし、つながっていけるような仕掛けができる、それをめざせるパートナーが **enoco** におられるということは、大阪としては大変貴重なものだ

と思う。

(事務局)

- ・委員の皆様からもずっとご指摘いただいているところでもあり、大阪府としても連携は大変重要であると認識している。今後もその観点は失わずに、事業を実施していけたらと考えているところ。実際、文化課や支援教育課とも、今年度は支援教育課と具体的な事業はなかったが、昨年度も連携事業を実施するなど、他部局との連携は今後も積極的に取り組んでいきたいと考えている。
次の議題にも関係するが、次期計画策定時にもその観点は損なわずに継続していきたいと考えている。

- ・その連携について、例えば **enoco** が、展覧会を実施しているのを何回か私も観に行ったが、それほど鑑賞者が入っているわけではないという感じも見受けられた。そこで、例えば福祉の方とか、支援教育の方など、関連性のある部局から事業所などいろいろなところにお声かけをするなど、後方支援をするだけでも、それをきっかけにたくさんの方が観に来るなど、注目するようなことが起こると、十分意味があると思う。このような企画をすればこのような普段来ない方々が来るんだ、来てくれるんだということが実感できれば、また次もやってみようということにつながるかもしれないと思うので、そういう形でも情報の共有と、広報の協力などを積極的に進めてもらえたらと思う。

- ・具体的な意見をありがとうございます。当事者としては文化がやっているのか、教育がやっているのか、福祉がやっているのかは実際関係がない。
皆さんが力を合わせたら一足す一ではなく掛け算になり、もっと広がっていくと思う。
そのことがインクルーシブに近づいていくという一番の力になるので、専門の皆さんも行政の皆さんも、「連携」という言葉がいろいろな場で言われているのは連携しづらいからだということを聞いたことがあるが、具体的に進めていただけたらと思う。

- ・万博について、厚労省とか文科省とかから、大阪が実施する事業に対してアドバイス等々はあつ

たか？

(事務局)

- ・ない。ただ、各自治体のカラーを尊重していただいているのかなと考えている。大阪にはビッグアイという国の施設があるという強みもあり、文化庁の事業をビッグアイが実施する際に、大阪府も少し連携させていただきたいと考え、相談しているところ。
- ・国でも、大阪で実施する万博で、大阪らしさみたいなものを求めてくるので、大阪から国に対して補助していただきたいという要望を上げることはできないのか？
- ・国は、万博のすべてのコンテンツについて、広報をしており、事業の詳細みたいなものが分かり次第、都度都度情報アップすることになっている。
- ・万博で、今回大阪府が実施するような舞台芸術やアート発信事業は、他府県でも実施するのか。
- ・他府県でも、例えば全国知事会などが、文化芸術の事業を実施することは、情報としては入ってきている。府が実施している事業については、府が予算要求し予算措置されたものについて大阪府の取り組みとして実施予定。国からは、府が実施する事業について、財政的に補助金を受けている。
- ・国として全面バックアップというわけではないが、ビッグ・アイとして、文化庁から万博で委託事業が舞台と美術ともに予定されている。
まず舞台芸術に関して、これまで文化庁主催の日本博 2.0 でやってきたダンス劇の集大成万博会場内で上演を予定。全国七都道府県と海外 4 カ国、11 地域で創作したものが一つの物語としてつながるという構成となっており、その中に大阪の作品が入っていて、そこは大阪府とも連携し、大阪らしさをダンスで表現した作品を発表する予定。
美術について、まだ内容を全部公表はしていない。現在、国際規模の大きな公募展を文化村

と一緒に実施している。現代アート、美術などの専門家によって選ばれた作品と合わせて発表するとともにこれまで大阪府事業として実施してきた「アバウトミー」を拡大して全国版を実施する予定。

その中に、大阪府内の事業所や施設の作品も出展を予定しているので、そこに関して大阪府の協力をいただかないとできない部分であり、文化庁の事業だが、協力連携しながら展開していくという計画を立てている。

- ・万博は本当に迫ってきているが、なかなか全体像が見えにくい。

B 委員は詳しいので情報をいただければと思うが、育成会として、全国手をつなぐ育成会連合会が事務局をして、障がい者の文化芸術について、**10** 月に、場所は万博内のエキスポホールで舞台を **4** 日間実施予定。実施するという情報は大阪府育成会にも届いているが、何をするかというのは実は来ていない。大阪育成会は地元でするんだから協力してねと言われているが、何を協力するんだらうというのがわかっていないという状況。

逆に言えば、まだ今から間に合うようなことがあるのかもしれない、ここは専門の皆さんが揃っているので、知恵を出し合って、良い万博の表現になればよい。

(事務局)

- ・厚労省は、府の、万博に向けて取り組んでいる事業に対し、国庫補助を措置してくれている。そして、これら事業に対し、国の機関にも広報の協力依頼をし、協力いただいているところ。来年度についてはどのようなバックアップが可能か未定だが、今年度は広報協力をいただいた。**C** 委員のご質問に沿っているか。

- ・はい。私は、国の審議委員もやっており、やっぱり万博で、このような活動をもっと広げていきたいと思いますと思っている。その辺の協力体制を、国に、もっともって府の方から、お金も含めてアピールしたらよいのではと思っている。

- ・この万博でも、国はレガシーレガシーということを発信しているので、来年度、再来年度に関しても、この大阪の万博を引き継いで大阪で発信していくために、●●をください、▲▲の計画も協

力をしてくださいと水向けすれば、国も動きやすいかなと思う。

- ・万博について、私はオランダ館で関わることになっている。関わることはとても良いことと思っているが、大阪に住んでいて大阪府民としてずっと活動していながら、大阪府民として全然貢献できないと感じている。何をしていけばいいのか、住んでいても実感がまだないような状態で、もう2か月後に迫ってはいるが、そのような印象。
- ・先ほどの **D** 委員の発言にもつながっていくが、万博がばーっとあって、単発的に障がいのある方が文化芸術でいろいろな表現活動をされることがあっても、それをトータル的に捉える役割の人がいなければ、それを力に変えていくには弱いかなと思うので、どのように取組みがされたかという集約は、何かの形があればよいのかと思う。そして、ここで押さえていけば、それがレガシーにもつながっていくと思うので、今後もお気づきの点があれば、部会以外の時間でも、事務局にお届けいただきたい。

議事 2 について

- 事務局より、次期第 6 次大阪府障がい者計画の策定スケジュールと万博後を見据えた大阪府の取組みの方向性について説明。

- ・議題 2 については承認でよろしいか？

- ・一同首肯

(委員意見)

- ・次年度について、文化庁の補助金事業に申請されていないようだが、万博の方に注力するということか？

(事務局)

- ・文化庁事業の国庫申請は、採択審査が大変厳しかったというのが本音で言いたいところだが、そうではなく、来年度は万博が本番ですので、やはり府としてはそこに注力をしたいというのが一番の理由。

- ・その際には、先ほど話していた **enoco** の展覧会は、文化庁の障害者等による文化芸術活動推進事業として採択されているので、それこそ協働でやっていけたりすると、より良いのではないか。

- ・貴重なご意見ありがとうございます。

- ・スケジュールについて、次期計画に向けても見直しを実施していくという説明もあったが、これから方向性について、何でも結構なので意見いただきたい。

- ・以前、大阪府が来所されたときも話をしたが、取組みとしては、府は他府県よりも先進的なことをされていると思うので、それをいかに知ってもらうかだと思う。

私は一昨年ぐらい前から大阪府下の高校を講演で回るケースが多いが、その際にこのような文化芸術の話もする。

しかしやっぱり、先生方もご存知ではないし、当然、子どもたちは全く知らない状況で、障がい者はどう過ごしているかな、と尋ねてみたら、それは単純作業でしょうとか、障がいのある人は入院されてるでしょう、という理解がやはり高校生の理解。支援学校や支援学級に告知し、普及させることに注力しすぎていて、マスの、たくさんいる方々に対しての活動報告というのが少し弱い気がする。私は **10** 年以上大阪府とお付き合いしてやってきているし、形になってきているので、もう少し府民の方に理解してもらう、告知をしていけるチャンスである。

それが先ほどからお話しされている **enoco** での活動でもあるし、特に、子どもたちにどう理解を促していくのかが弱いような気がする。

- ・障がい福祉の生活と真ん中の私からすると、障がいのある方が表現していることに一番知ってほしい、一番触れて欲しいのは、実は障がい者同士ではなくて、一般地域の方である。

そう思うと、この素敵さ、この素晴らしさを自分たちだけのものにするのではなくて、もっと広く伝えていくための方策みたいなことができると素敵ですね。

「すそ野が広がる」とこの計画では言っているが、障がいのある方のすそ野だけではなく、地域のすそ野が広がればいいかなと思う。

・先日、府事業の一環として、高槻で公演をさせていただいた。まずは感謝申し上げる。

B 委員のとおり、非常に鑑賞に対するサポートが手厚くて、本当に早くに満席となり、たくさんの方に観に来ていただけたことが本当に良かった。

もともとこの公演自体が全国で3カ所目、以前東京と久留米で実施しており、その時点から公演中に声を出して楽しんでいただいて大丈夫です、それを温かく皆さんで見守ってくださいというアナウンスのもと、この公演が始まるという形をとってきた。

今回の大阪公演でも私は演じながら、一番印象的だったのは、一番前に座っておられる方が視覚に障がいを持たれている方で、隣にお母さんがおられて、私たちの動きを全部口で説明されていた。このような、いわゆる音声ガイドという形もあれば、その人が一緒に同じ劇を観ているということを他のお客さんも共有していける空間だったということはすごく意義があることだったと思う。特に今回は小さい子どもさんたちも観ていた演劇だったので、そういう子どもたちはお互い障がいがあるなしに関係なく、お客さん同士お互いの存在を確認しながら、今日同じものを観るという空間が築けたことは、非常に嬉しいなと思った。

伝えたいことは2つ、1件目は大阪府障がい者舞台芸術オープンカレッジについて。

私自身、昨年度は大きく関わっていないが、その中に中川圭永子氏という方が演劇講師に今年から新しく入っておられる。

彼女は視覚に障がいがあるが、このように当事者のアーティストがワークショップの講師として関わっているケースは、全国でもそんなにまだない。それを積極的に取り入れておられるのは、国レベルの中でも非常に画期的な試みだと思う。なので、そのあたりも多くの人知らないだろうから、他府県の皆さんに知っていただくと非常に嬉しいと思う。

2件目は、先ほど**D** 委員からもあったが、連携というか協働というか、大阪府内でもう少しやっていただきたい。私は茨木市と一緒にワークショップと市民参加のダンス公演というのを今年で4年になるが実施している。障がいのあるなしは関係がないということを最初に銘打ってやってきたのだが、気付きが増えてきている。今年度の今の段階においては、下が8歳から上が**95**歳まで、障がいがあるなしに関わらず、属性の無関係な集団が出来上がってきている。

何を申し上げたいかというと、茨木市の事業は文化庁の補助金事業に申請を出し国庫措置がある形でなんとかなんとか保っている。お金云々だけではなくて、大阪府の中でこのような試み

をしているということにもう少し連携というか、知っていただけたら嬉しい。茨木市単独で頑張っているみたいなのがやはり起きているので、もう少し相互的に関わられるような体制が取れたらいいのかなと思っている。

・今日は何度も繰り返して出てくる、福祉だけではなく、広く連携していくことというのは、次の計画策定の方向性としては、もう少し分厚めに入って良いかと思う。それと、鑑賞の場の広がり。出演する方の広がりも、観る方の広がりもいずれも重要なのだと感じた。

・毎回言っているが、公立文化施設、劇場音楽堂と呼称されるところが、他府県全体全部ではないが、大阪府と比べると、他府県は取組みが始まっている。大阪府は単独でやっているのか、もしくはほぼ対応していないというのがあり、今回高槻市で実施したが、創造事業でもいいし、鑑賞事業でもよいので、このように協力連携すると良い。

障がいのある方の、例えば鑑賞であったり、表現活動であったり、どのようにサポートしていくか、支援していくかというやり方がわからない、ノウハウがないということで一歩が踏み込めないと思うが、今、A 委員が茨木市で出前事業を実施しているのと同じように、専門性のある人、経験のある人たちをうまくつなげて連携し展開していくことは必要かと思う。

今回連携実施した高槻市の劇場の方たちも、目からウロコでした、との声があった。今まで障がいのある方を対象にしてイベントをするということがなかったのも、こうすれば障がいのある方がこれだけでも来られるのかという意見ももらっているのも、体験がまだできていないというのが文化施設の現状なのかと思う。enoco も、高槻市も、茨木市も、何年か頑張っておられるのでこのような場所をもっと点在させて増やしていくことが大切と感じている。

C 委員もおっしゃったが、大阪ではないが、近畿で公立文化施設の、協議会などの委員をしているので、このような協議会や連絡会、博物館も入れた文化施設において、大阪府の事業をご案内や発表ができるような場があると良いかと思う。

文化セクションの方に知っていただくという機会になるのかなと思う。

今日文化課の方もオブザーバでいらっしゃるので、ぜひこの府の事業を、文化の方にも広げていただけるような機会を作っていただきたい。

・鑑賞する側の意見としましては、私は堺市在住ですので、本当にビッグアイのおかげで体験をしに行くことができる。私の仲間の重度知的障がい青年は、体験プログラムをチャレンジした結果、こないだは一般のライブを観に行けたと。急に健常の方に交じって観劇に行くのはとってもハードルが高いが、練習をしたら鑑賞する自信がついて、一般のライブも行けるようになるので、そのような機会の創出は、実は出演する方だけではなくて、鑑賞する方も練習させてもらえたらありがたいと思う。そしてそれがビッグアイだけだったらやはり毎回堺まで行く必要があるということでは行きづらく、あきらめるのは府としても損と思うので、そのような施設が府内に点在すると素敵と思う。

・大きなことは言えないと思うので、気がついた部分的なところからお話しさせていただきたい。

今年度 **enoco** との連携事業がポイントだったというところ。まさにそうで、資料 3 にも、他部や多機関との連携を含むということも書いてある。カペイシャスは福祉部の管轄ではあるが、文化課との協働というところで、私たちがすぐ教育とも協働というのは、気持ちは常にすごくオープンであるものの、能力的にも一足飛びには行きづらいかもしれないが、美術関係との協働というところはあるかなと思った。議題 1 に戻ってしまうが、今年の実績のところ、二次利用の 80 万のところまでしか書かなかったが、金額ではないが、こういう他分野との連携についても書いておくと、来年も忘れずにここは意識化されていくのではなかろうかと感じた。

それと、C 委員もおっしゃっておられたが、万博を契機に、国も今支援をしようとする追い風があるということで、今年はもちろん万博イヤーで予算がついているけれども、それで終わりではなく、次につながる何かを提案していくべきと考える。私は美術の方なので美術で考えると、立ち上げ当初から申し上げていたことでもあるが、カペイシャス事業である作品の販売事業というのは、美術の中でもかなり極端なところというか、かなり一部分であると思う。

もっと「観る機会」だったり、「観せる機会」だったり、「観せ続ける機会」だったりが必要で、観せ続けることで認知度が広がり、作品が欲しいという方が現れるというような、そのプロセスである、観せ続ける場がない。それがなければ認知が広がらないし、観せ続ける場というのは、施設を建てるという話をしているわけではなく、どこか有効なスペース、あるいは期間限定でも、アクセスがしやすい場所、いろんな方が入って来られる場所において、当面の 2 年や 3 年などでも、期間限定で運営していくことでノウハウも含めて情報などが蓄積されていくのではないかと。カペイシャス

を始めた当初から考えていたことであるが、観せ続けることが一つの軸にあるべきだと感じる。まだそこは手付かずと思うので、そこに一步踏み込んでいけると、また違う動きが発生していくのではないか。当初からそれを考えてたというところで考えは発展性がなく、硬直化しているのかもしれないが、やはりそこはベースにあるべきではないかなと思い、一度検討いただけるとありがたいなと思っている。

- ・30年以上、障がい者の親をしているので、障がいのある方の作品を展示するとか、発表するとか、すごく福祉的な色合いが濃いところばかりを与えられていて、もっと一般の、言い方が少し語弊があるかもしれないが、カッコいい場所とか、なんだかおしゃれな場所とかというようなところで、展示会が当たり前になるようなといいなという夢がある。そのような足がかりが着実に進めばいいのになと感じる。

- ・大きな話になってしまうかもしれないが、大阪府が、美術について、アート市場への挑戦という方向性で、すごく力を入れてやっていることは、本当に他府県にはなくて、大変重要なことで先進的なことだと思う。これはぜひこれからも続けていっていただきたいが、一方で今、E 委員からもアート全体の話があったが、美術全体を見れば作品の評価はやはり売買だけではないと思う。特に現代アートとかだと、買って持って帰れないような表現というか、その場限りにしかないような表現というのはすごくたくさんあって、そういうところで力を発揮する障がいのある方もきっとおられると思う。ライブパフォーマンスなどもそうかもしれないが、美術の方でもそれこそ日々の日常的な少しこだわりのある行動そのものがすごく表現的であるなど、そのようなものは多分、なかなか市場には乗っていかないと思うが、そのような表現の面白さみたいなのところももう一方で見ていく必要があるのかなと思う。額に入るもの、台座に乗るもの、そういう形で販売できるものじゃないもの、そのような表現の目も是非いろいろ見つけてほしい。それはやはり、きっと現代アートの作家との協働の中で生まれていくことだと思う。

それは実際に若手アーティストさんを中心に、ほかの場所ではずいぶん起こっていることで、例えば東京都の渋谷公園通りギャラリーは障がいのある方のアートに特化したギャラリーであるが、現代アートの作家と協働ですごくエッジの効いた面白い展覧会を、常に多く開催している。そこは本当に現代アートの鑑賞者がたくさん来るような場所になっていて、そういう、何かもう少し別の

方向性も同時に見ながら、実施していただけたらと思う。

- ・私の知り合いでも、キャンパスに描けないが、壮大なカッコいい作品を作る人もいますので、そういう作品も目の目を見るときがあればよいと夢を感じる。

本日さまざまにいただいたご意見等を踏まえて、府の方向に入れながら進めていただきたい。